



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
 JR新宿ビル13F 〒151-8512
 電話 03-3375-5740(代)

2018年6月1日
 第678号

発行人 村田俊雄 代理 編集人 中山透
 月2回(1日、15日)発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

2018年度 夏季手当の 申し入れをおこなう

JR東労組

基準内賃金の3.1ヶ月+5万円

支払指定期間：6月27日～29日

回答期間：6月8日～12日



全組合員の努力の賜です！

好調な収入は職場で汗して働く

JRバス東北本部

社員 基準内賃金の
3.0ヶ月
契約社員は社員に準
ずること

支払指定期間：6月27日～29日

回答期間：6月14日～18日

JRバス関東本部

社員 基準内賃金の3.0ヶ月
契約社員Aは社員に準ずること
契約社員Bは一律5万円を加算
すること

JR東日本ステーション

サービス協議会

基本給月額3.0ヶ月

支払指定期間：6月27日～29日

回答時期は別途申し入れ
によること

満額回答を勝ちとろう！

全組合員の団結力を背景に精力的に団体交渉をおこないます！

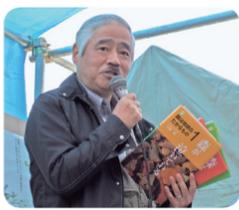
第37回 足尾ふるさとの森づくり

14年間みんなで植えた73,000本！

植樹活動で足尾に森が蘇る



森が蘇った「うす沢の森」



5月15日、「森びとプロジェクト委員会」理事長岸井成格さん(73歳)が病氣療養中でしたが永眠されました。岸井さんは、「森びとプロジェクト委員会」理事長として、自然を蘇らせる森づくり運動に情熱を捧げ、植樹活動参加者に環境破壊の危機的な状況や脱原発社会の実現を訴えました。また、ジャーナリストとして、政治権力や企業権力をチェックし、権力者に立ち向かいジャーナリストの使命を生涯貫き通しました。「政経フォーラム」でも政治情勢を語っていただきました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

ご冥福をお祈りします

5月19日、栃木県日光市足尾町松木沢地区において、「森びとプロジェクト委員会」は「第37回足尾ふるさとの森づくり」を開催し、320名の参加者が「民衆の杜」で20種類3,561本の苗を植樹しました。

植樹後に「森びとひろば」で行われた「森ともの集い」で、主催者を代表して高橋副理事長は「14年間で73,000本の苗を植えた、今後は植樹については休養に入り、草刈りなど育苗作業を行っていく。そして、この森に多くの人が来てもらい、足尾の歴史や自然の大切さを伝え、森は生き物の源であることを知ってもらい地球を残すために「人の心に木を植える」活動をしていく」とあいさつを行いました。

また、宮脇昭最高顧問も現地に駆けつけ、14年間植樹や育苗、さらには鹿などの鳥獣被害と格闘し、蘇った森を高橋副理事長の案内で視察、「森ともの集い」でも宮脇節を披露しました。

JR東労組は、ドングリを拾って



苗を育て、その苗を植樹するとうす沢の森づくり運動を通じて「自然環境と命を大切に育む心」を人づくりを行うという「森びとプロジェクト委員会」の趣旨に賛同し、多くの組合員・家族がドングリを拾い、苗を育て植樹活動に参加しています。また、森びとインストラクターやスタッフにも多くのOB会員や組合員が参加し、活動を担っています。

2005年に植樹して以降、植樹活動や草刈り、さらに動物から苗を守る育苗活動などを多くの組合員・家族・OB会員の皆さんのご協力によって継続し、荒れ果てていた松木沢地区に森を蘇らせることができました。

ぜひ、ドングリを育てていただきたいすべての皆さんに、一度この地に立って、14年間の活動の成果と自然の大切さを感じていただきたいと思えます。



沖繩の美し
 浦湾の美し
 いサンゴと
 豊かな藻場
 の上に今日
 も砕石が投
 下されていく。辺野古の米軍
 新基地建設は「美ら海を返
 せ」という市民の声を無視し
 て今日も続けられている▼ゲ
 ート前では、多くの市民が肩
 を寄せ合い、じっと動かない
 で資機材の搬入を止めようと
 座り込む。警察は「道路交通
 法違反に該当します。速やか
 に移動してください」と警告
 する。警告後、市民は排除さ
 れ、資機材は運ばれていく▼
 沖繩県伊江村の米軍飛行場で
 5月22日、軍用車両の投下訓
 練が10年ぶりに強行された。
 村は重大事故を懸念し中止要
 請を行なったがその声は無視
 された▼そのような中、自民
 党が政府への提言として「今
 後の沖繩振興の方向性につい
 て」をまとめた。その内容は、
 人材育成策として米軍を
 活用した英語教育を図るとい
 う▼どこまで、沖繩が虐げら
 れればいいのか。なぜ、沖繩
 の市民の声に寄り添えないの
 か、憤りの中、琉球新報の記
 事を目にした。「沖繩県民の
 宝である「美ら海」。そこを
 埋め立てる石材が、また運ば
 れていく。多くの国民が昼食
 を取り談笑している、この時
 間も。」▼沖繩の現実を許し
 ているのは私たちが。今自分
 は何をなすべきかを問いかけ
 る。
 (S・T)

